



16:1 【主】はサムエルに言われた。「いつまであなたはサウルのことで悲しんでいるのか。わたしは彼をイスラエルの王位から退けている。角に油を満たせ。さあ、わたしはあなたをベツレヘム人エッサイのところに遣わす。彼の息子たちの中に、わたしのために王を見出したから。」

16:2 サムエルは言った。「どうして私が行けるでしょうか。サウルが聞いたら、私を殺すでしょう。」【主】は言われた。「一頭の雌の子牛を手にし、『【主】にいけにえを献げるために来まし』と言い、

16:3 エッサイを祝宴に招け。わたしが、あなたのなすべきことを教えよう。あなたはわたしのために、わたしが言う人に油を注げ。」

16:4 サムエルは【主】がお告げになったとおりにして、ベツレヘムにやって来た。町の長老たちは身震いしながら彼を迎えて言った。「平和なことでおいでになったのですか。」

16:5 サムエルは言った。「平和なことです。【主】にいけにえを献げるために来ました。身を聖別して、一緒に祝宴に来てください。」そして、サムエルはエッサイと彼の息子たちを聖別し、彼らを祝宴に招いた。

16:6 彼らが来たとき、サムエルはエリアブを見て、「きつと、【主】の前にいるこの者が、主に油を注がれる者だ」と思った。

16:7 【主】はサムエルに言われた。「彼の容貌や背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、【主】は心を見る。」

16:8 エッサイはアビナダブを呼んで、サムエ

ルの前に進ませた。サムエルは「この者も【主】は選んでおられない」と言った。

16:9 エッサイはシャンマを進ませたが、サムエルは「この者も【主】は選んでおられない」と言った。

16:10 エッサイは七人の息子をサムエルの前に進ませたが、サムエルはエッサイに言った。「【主】はこの者たちを選んでおられない。」

16:11 サムエルはエッサイに言った。「子どもたちはこれで全部ですか。」エッサイは言った。「まだ末の子が残っています。今、羊の番をしています。」サムエルはエッサイに言った。「人を遣わして、連れて来なさい。その子が来るまで、私たちはここを離れないから。」

16:12 エッサイは人を遣わして、彼を連れて来させた。彼は血色が良く、目が美しく、姿も立派だった。【主】は言われた。「さあ、彼に油を注げ。この者がその人だ。」

16:13 サムエルは油の角を取り、兄弟たちの真ん中で彼に油を注いだ。【主】の霊がその日以来、ダビデの上に激しく下った。サムエルは立ち上がってラマへ帰って行った。

ダビデはメシア（救い主）のひな型で、メシアはダビデのような主権を確立すると期待されていました。そのメシアであるイエス様を、ダビデは子孫であるのにもかかわらず主と呼んでいます。そのことからメシアは血肉の家系や地上の出来事を越えた天的なお方であるということが明らかにされています。

このようにダビデ王はメシア理解に重要な人物ですが、そのダビデ王は人間の基準で選ばれたのではないということが表されています。「人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」

との言葉通りです。

サウルはその点、人々の要望により、背の高さなどからふさわしいと思われた人でした。神の視点で、神の価値観で物事を見るようにしましょう。その視点を折って主からいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

